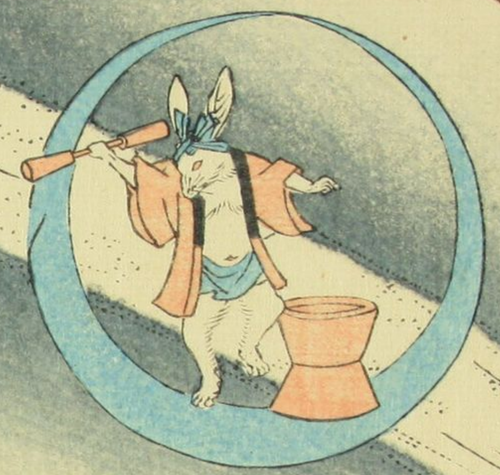
八編上
外題曲亭國名

落語
菟道曝
八編

笑亭仙果作
一雲斎國貞画

安政丙辰春　栄久堂彫鐫



芳野川岸
榮久堂
山定版

うぢ榮
宇治乃曙
八海上の巻

楳蝶樓國貞画

仙果作

早稲田文庫

磯菜方阿古木おつき伊勢(下)〜六十四歳あれば義植公春風を召さるる頃八六十の老女
う義植公富世前ゞ五も卒お餘〜まゝ玉葛も五十五情欲の沙汰所よてもある
ゞ〜五五ど三手長袖四十未笄高野六十那智八十容を粧ひ海を鬻ぐ境界おひくろ五
老幼穿さまい及ばぬ如く表お花美を飾裏お勧懲を含む物語書造紙の類八
理外の閑色おくんいわ〜ゞ光大將の貌を写すお十九や廿も四十の賀の後まゞも同
顔お画くなンど繪のまゝわ〜ず本文お衰うるふさまい記さず既お紫女も六十
近き玉蔓のことを書おれいう〜のゞどゆふいろいとろきよびおのれさろのりくもとうを
『みよろ』おど記冷泉の御門の今も猶仏のうゞくやうお作や薫ゞあゆ〜ゞ
さる扨年齢をきくてい相應〜うらゞ前作者も此六編おことよのまゝいそるのくさゞを
も今八年増て少くおそ〜頃とうも其美さい猶更おうもあゞくてうあめれどとバ餘お筆ゞ過さ
ゞど美人の花を散さゞ〜ゞ用心おれば外ゞ〜ゞ牽牛織女八神代より今も不易ぬ合歓
況や稗史小説年表を固守りてい作もせられど画もかゝまずと理屈先生の詰問お答へ〜
一章をもて半頁をふさぐ

辰春新刊

笠亭仙果

東ハ梅津直春の家
白河殿七百首ふ
新大納言
頭朝卿の歌
梅津弟女 初雪
夜星のつまもむつまじくあらそ
まれの逢ぬそうらめ

万葉集巻十
棚機之五百機立而織布之
秋去衣孰取見
秋去ハ和布の誘れと
先ちきられそう
一色後家
王葛
同長女
春風
西ハ一色民部の家

梅宮御神前
常夜燈
神巫
常陸帯の香琴
竹川芝水

梅宮御神前
常夜燈
三好大蔵長泰
白柏子
雲井

片攪調大夫妻
水原

右
左

右
左

玉
春

東
王

西
春

仙果作　國貞画

薄紫宇治晒

六編ハ竹川の巻の末より紅梅の巻と説終り七編ハ總巻の巻首を説發し彼巻ハ十帖の中の長りのかくりとふ總巻姫ゞ終身の事を綴まゞ巻中きハめて要文おゝし此段ハ八編九編ハもっぱり猶例の狂言をくりハ十編ハ早蕨の巻み至べゝ

わ。のつ〜だ。伸求こ上侍る評偏奉希上ハ

榮久堂伏票

地本問屋　江戸よし町　やぢ橋角　山崎平吉梓

仙果作
國貞画
八編下
榮久堂
壽梓

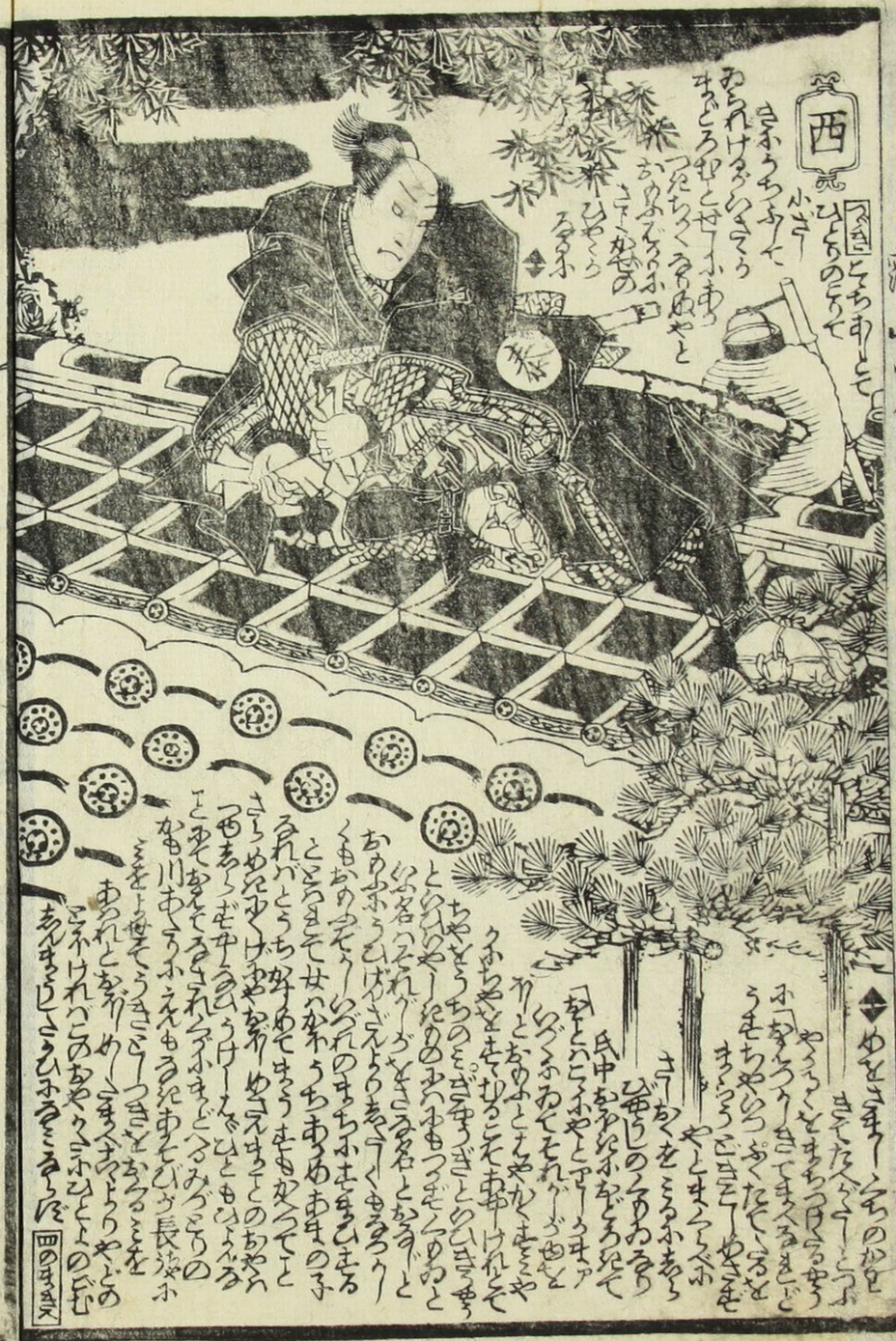
彩州
國貞画
十中板
字佐の
つゆのやどりハ人の下

東三
東九
つゞき
此画次ぜんくとあわ淡ちくれど画こゝによりてこゝ小出す
つゞき
九
東云

雪

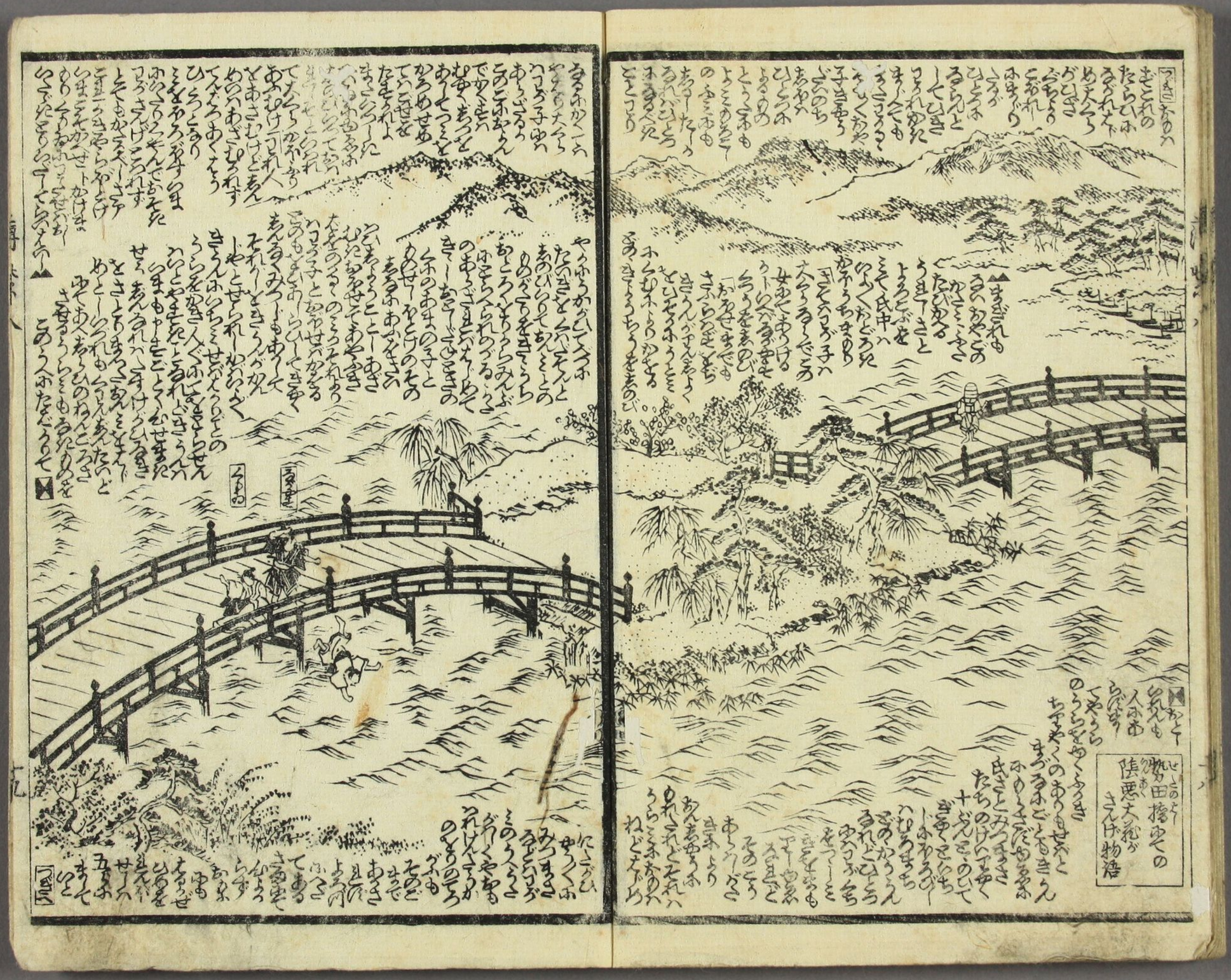
泰

香



西

東



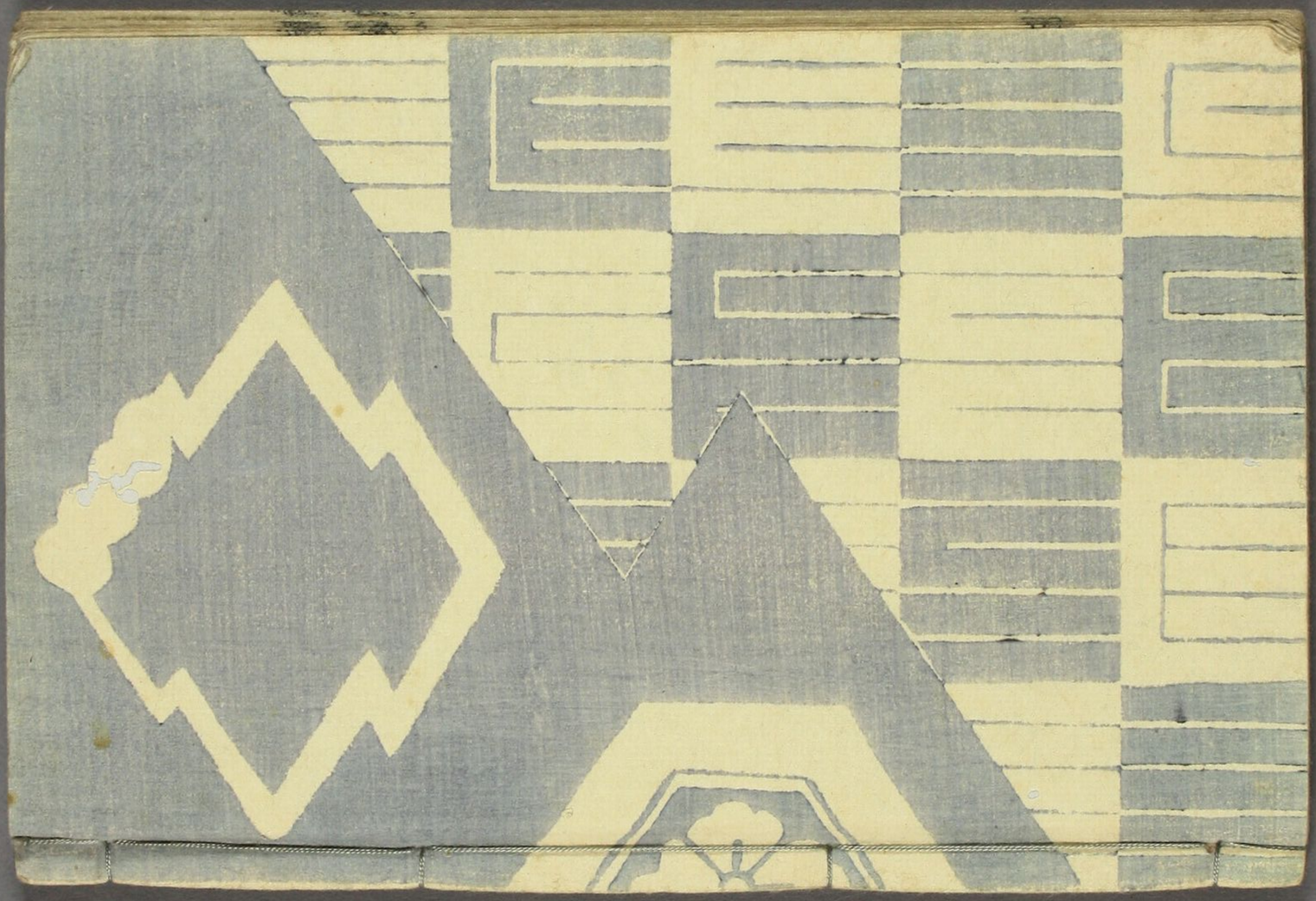
榮久堂藏版新舊稗日録

笠亭仙果作
一陽齋豐國画
三都妖婦傳 中本袋入 三編四編 板

追局 **八犬傳後日譚** 六編 八編 出板 為永春水作
一勇齋国芳画
双紙八里見義乱の出身とうえ[illegible]
傳を前傳に倣ひて[illegible]
[illegible]

女用文袖硯 頭書 女教必用 後雲堂先生著 中本 全

女消息往来 頭書 女教重宝 月岑著 半紙本

風流 **源氏五十四帖** 中形 錦画 箱入
[illegible]

東都地本問屋 榮久堂 山本平吉